

除草剤をよりたやすく

このところ、毎年の行事のように、千葉県内の印旛沼周辺の稲作農家などの常連と連れだって、アメリカ、ソビエト、イタリアなどを駆けめぐりながら、それぞれの国の代表的な稲作地帯を訪れた。それらの稲作の生産規模は、いずれも数百ヘクタール以上で、大型機械を駆使する直播栽培を行っていたが、投下労働力は極めて少なく、単位面積当たりの収穫量は相当に高い。

管理作業のうち、病害虫防除のための、いわゆる農業はほとんど利用されないが、除草剤は極めてよく利用されている。実際の除草体系は、生育初期処理＋中期処理で、これにはDCPA乳剤やモリネート、さらにMCP系薬剤、またはそれを主体とする混合剤が利用されているが、その種類は極めて少なく、またそれらは、いずれもわれわれとなじみ深いもので、この点からもわが国の研究が極めて高い水準にあることが首肯された。

ところで、わが国で流通している除草剤は、その種類が極めて多い。これは、稲の多様な栽培型、複雑な水田立地、雑草の発生態、とくに除草剤利用による雑草生態系の変化、さらには除草効果に対する期待度など、さまざまな要因によるものであろうか。それにしても、稲作農家は除草作業をたやすく行うために、より適用範囲の広い有効な除草剤の出現を期待している。

この種の研究の本来の目的は、除草作業を安全な省力技術として確立することによることに鑑み、なお一層の発展を願うものである。

(林 政衛)

目 次

(第9巻第10号)

年 頭 雑 感	2
＜農林水産技術会議 川嶋良一＞	
新年にあたって	4
＜日本植物調節剤研究協会長 戸町義次＞	
植物の組織培養	5
＜野菜試験場 西 貞夫・大沢勝次＞	
はじめに	5
1 植物組織培養略史	5
2 組織培養と生育調節物質	6
3 植物組織培養の応用場面	8
一とくにその育種的利用一	
4 植物組織培養の実際	18
おわりに	24
水田多年生雑草の種生態と防除	25
＜農事試験場作物部 草薙得一＞	
はじめに	25
I 水田多年生雑草の分布と生態	26
1 種類と分布の現況	26
2 2,3の種生態的特性	27
3 葉数および分株発生の推移	31
一とくに除草剤の処理期に関連して一	
II 水田多年生雑草の防除法	34
1 主要な除草法とその特徴	34
2 除草剤による生育期防除に おける問題点	35
おわりに	36
昭和50年度桑園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要	39
昭和50年度茶園関係除草剤・生育調節剤試験成績概要	42